

The 25th Japan Society of Internship and Work Integrated Learning

日本インターンシップ学会 第25回大会

2024年9月14日・9月15日

共創による

新たなインターンシップの展望



大会プログラム（1日目）9月14日（土）

10:30-	会場受付開始	L棟4階イベントホール
11:00-12:00	<p>開催校イベント Rethink 愛知東邦大学－共創の舞台づくり 報告者：松井 健斗（株式会社カナメヤ代表取締役） カナメヤ所属学生団体 学生チーム 司会：手嶋 慎介（愛知東邦大学）／カナメヤ所属学生団体 学生チーム</p>	L棟4階イベントホール
12:00-13:00	昼食休憩 *昼食を事前にお申し込みの方は、S棟1階にてお弁当をお渡しいたします。	
13:00-13:15	<p>開会式 会長挨拶 吉本 圭一（滋慶医療科学大学大学院） 開催校挨拶 鵜飼 裕之（愛知東邦大学学長） 実行委員長挨拶 手嶋 慎介（愛知東邦大学）</p>	L棟4階イベントホール 司会：牛山 佳菜代（目白大学）
13:15-14:05	<p>基調講演 テーマ：若者・社会を取り巻く職場環境と働く価値観の変化 講師：古屋 星斗（リクルートワークス研究所）</p>	L棟4階イベントホール 司会：牛山 佳菜代（目白大学） 講演者紹介：今永 典秀（名古屋産業大学）
14:05-14:20	休憩	
14:20-16:20	<p>シンポジウム テーマ：これからインターンシップには、何が求められるのか シンポジスト： 中村 憲和（一般社団法人わくわくスイッチ） 南田 修司（NPO 法人 G-net） 今永 典秀（名古屋産業大学） 古屋 星斗（リクルートワークス研究所） コメントーター / モデレーター：松坂 暢浩（山形大学）</p>	L棟4階イベントホール 司会：牛山 佳菜代（目白大学）
16:20-16:30	休憩	
16:30-17:10	<p>学会表彰委員会 高良記念研究助成報告 タイトル：企業・施設の受け入れ側からみる大学生インターンシップの成熟モデル －山口県インターンシップ推進協議会 登録企業調査より－ 発表者：角光 通子（宇部フロンティア大学） 2024年度 高良記念研究助成 授賞式</p>	L棟4階イベントホール 司会：眞鍋 和博（表彰委員会委員長／北九州市立大学）
17:10-17:55	会員総会 *対面とオンラインの併用によるハイブリッド開催を予定しております。	L棟4階イベントホール
18:10-20:00	<p>懇親会 挨拶：松坂 暢浩（東日本支部支部長／山形大学） *懇親会終了後、最寄り駅までバス（無料）をご用意しております。ご利用ください。</p>	S棟1階スチューデントコモンズ

大会プログラム（2日目）9月15日（日）

9:00-	受付開始				A棟1階
研究発表 9:30-12:00					
会 場 教 室	A会場 A101教室	B会場 A102教室	C会場 A205教室	D会場 A207教室	
テー マ	職業統合的学習と キャリア開発	インターンシップの 学修成果	長期インターンシップと フィールドワーク	インターンシップ推進の 課題	
司 会	眞鍋 和博 (北九州市立大学)	古田 克利 (立命館大学)	二上 武生 (工学院大学)	山本 美奈子 (山形大学)	
9:30-10:00 第1セッション	A-1 日系企業における国際イン ターンシップを通じた企業内 人材育成－キャリア形成と多 文化理解の視点から－ ○川端 千鶴（北海道大学）	B-1 課題解決型インターンシップ への参加動機と能力形成一単 位認定と単位認定外の比較を とおして－ ○渡邊 和明（鹿児島大学）	C-1 必修科目の長期インターン シップと事前の教育プログラ ム－名古屋産業大学 経営専門 職学科の事例－ ○松林 康博（名古屋産業大学）	D-1 初年次インターンシップに臨 む学生が事前に知っておきた いこと - ビジネスマナーに着 目して - ○世古 雄紀（名古屋産業大学） *2 ○松坂 暢浩（山形大学）*3	
10:00-10:10	移動・休憩				
10:10-10:40 第2セッション	A-2 愛知中小企業家同友会イン ターンシップの現状と課題 ○手嶋 慎介（愛知東邦大学） ○見目 喜重（豊橋創造大学）	B-2 選択必修科目における実践型 インターンシップ経験による 教育効果の検証 ○桑畑 夏生（宮崎大学）	C-2 長期実践型インターンシップ における学生専属メンター の内省支援－NPO法人ブ ランディングポートによる B-CAMPの事例より－ ○安藤 奏（特定非営利活動法 人ブランディングポート） ○野島 朋子（特定非営利活動 法人ブランディングポート）	D-2 Z世代に対する新入社員研修 の検証 ○原 一将（札幌国際大学）	
10:40-10:50	移動・休憩				
10:50-11:20 第3セッション	A-3 NCSを基盤とする学習モ デュールの展開－韓国専門 大学のビジネス分野を中心と して－ ○江藤 智佐子（久留米大学） ○椿 明美（札幌国際大学）*1	B-3 インターンシップを通じた短 期大学生の社会人基礎力の育 成 ○井崎 美鶴子（目白大学短期 大学部）	C-3 複数企業によるインターン シップ ○今永 典秀（名古屋産業大学）	D-3 職務の接続性とインターン シップ・実習や就職の関連性 に関する実証分析－専門学校 生及び大学生に対する調査結 果より－ ○三保 紀裕（京都先端科学大 学）	
11:20-11:30	移動・休憩				
第4セッション	A-4 日韓卒業生調査からみた職業 統合的学習 ○吉本 圭一（滋慶医療科学大 学）	B-4 デザイン思考のエッセンスを 取り入れたインターンシップ 合同振返りワークショップの 実践事例 ○宮崎 愛弓（目白大学）	C-4 地域連携型アクティブラーニ ングによる汎用的能力の変化 についての一考察 ○上岡 史郎（目白大学短期大 学部）	○肖 蘭（北海道大学） ○龜野 淳（北海道大学）	
【共同研究者】					
*1 吉本 圭一（滋慶医療科学大学）・和田 佳子（札幌大谷大学）					
*2 今永 典秀（名古屋産業大学）					
*3 山本 美奈子（山形大学）・藤原 宏司（山形大学）					
12:10-12:40	閉会式	L棟4階イベントホール			
	会長挨拶 第25回大会実行委員挨拶 次回開催校挨拶 記念写真撮影	吉本 圭一（滋慶医療科学大学大学院） 松坂 暢浩（東日本支部長／山形大学）			
		司会：牛山 佳菜代（目白大学）			

基調講演

若者・社会を取り巻く職場環境と働く価値観の変化

若者や社会を取り巻く環境は、近年特にめまぐるしく変化を遂げている。情報技術革新に伴う働き方の変化、働く価値観に対応し、企業や大学はどのように変化・進化を遂げるべきなのか。特に世代間ギャップの問題として「Z世代」と呼ばれる若者は、今何を求めているのか、何を課題として認識しているのか。インターンシップでは、若者と企業（社会）が協働することになる。このような中で、異なるアクターがWin-Winの関係、特に、一過性の取り組みではなく、持続発展する「共創」の関係性の構築に向けて何が必要なのかを考えたい。

基調講演では、リクルートワークス研究所の古屋氏より、現在の労働市場・若者のキャリアなどの視点から、昨今の職場や若者の考え、そして、今・これから求められるインターンシップについて話題を提供いただく。

日 時：2024年9月14日（土）13時15分～14時05分（50分）

会 場：愛知東邦大学 L棟4階イベントホール

講 師：古屋 星斗（リクルートワークス研究所主任研究員）

講師紹介：今永 典秀（名古屋産業大学）

司 会：牛山 佳菜代（目白大学）



【講演者プロフィール】

古屋 星斗 リクルートワークス研究所 主任研究員

一般社団法人スクール・トゥ・ワーク 代表理事

若者キャリア形成研究、若年労働市場研究を専門領域とするほか、高校就職者のキャリア支援など実践にも従事。

岐阜県出身。2011年一橋大学大学院 社会学研究科総合社会科学専攻修了。同年、経済産業省に入省。産業人材政策、投資ファンド創設、福島の復興・避難者の生活支援、政府成長戦略策定に携わる。

2017年より現職。労働市場について分析するとともに、若年人材研究を専門とし、次世代社会のキャリア形成を研究する。一般社団法人スクール・トゥ・ワーク代表理事。主な著書：『なぜ「若手を育てる」ことは今、こんなに難しいのか—ゆるい職場時代の人材育成の科学』,2023, 日本経済新聞出版、『ゆるい職場—若者の不安の知られざる理由』,2022, 中央公論新社 など

シンポジウム

これからインターンシップには、何が求められるのか

インターンシップでは、様々なアクターが関与し、実施される。そして、その対象や形態は近年多様化している。それぞれのアクターの利害のみを押し付けたインターンシップは、単発で終了し、参加学生にとっても十分な効果が得られないケースも日々存在する。

今回のシンポジウムでは、「東海地域」を中心に、近年、多様なアクターと連携した新たな取り組みの実践者らの事例紹介と、その事例がどのように生まれたのかを議論する。多様なアクターが、単に一緒に実施するだけのコラボレーションではなく、双方が異なるインセンティブを有しながら、お互いにとってメリットを享受し、持続的な発展を遂げる「共創」が成立するための、連携のあり方や要素・諸条件、「共創」の実現に向けた障壁について議論したい。

日 時：2024年9月14日（土）14時20分～16時20分（120分）

会 場：愛知東邦大学 L棟4階イベントホール

シンポジスト：

南田 修司（NPO 法人 G-net 代表理事）

中村 憲和（一般社団法人わくわくスイッチ代表理事）

今永 典秀（名古屋産業大学）

古屋 星斗（リクルートワークス研究所主任研究員）

コメントーター／モデレーター：松坂 暢浩（東日本支部長／山形大学）

司 会：牛山 佳菜代（目白大学）



【シンポジストプロフィール】

南田 修司

NPO 法人 G-net 代表理事

1984年、奈良生まれ。奈良学園高等学校、三重大学大学院教育学研究科修了。2009年に新卒で NPO 法人 G-net に加入し、副代表、共同代表を経て 2017 年より代表理事に就任。G-net の中核事業のひとつ「ホンキ系インターンシップ」は地方に特化したモデルとして、政府による複数の表彰や全国で採用される高校の教科書「政治経済」等、複数の書籍でも紹介されている。また、2018 年には、兼業・複業に特化した社会人向けマッチングプラットフォーム「ふるさと兼業」を立ち上げた。ふるさと兼業は 2021 年 HR アワード入賞。

現在は、オンラインキャンパス「つながるキャンパス」の運営や、地域・社会との共創をテーマとした新たな大学 Co-Innovation University（仮称）の実践カリキュラムの設計など、多様な形で地域と人をつなぐ仕組みづくりを進めている。



【シンポジストプロフィール】

中村 憲和

一般社団法人わくわくスイッチ 代表理事

大阪府出身。大阪学院大学卒業後、飲食店の店舗運営や立ち上げに関わる。その後、NPO 法人 JAE、一般社団法人ワカツクなどで長期実践型インターンシップのコーディネーターとしてのキャリアを経て、2015 年に三重県で団体を設立。長期実践型インターンシップ、取材型インターンシップ、採用支援活動（就活アウトロー採用）などに取り組む。2018 年より、東海地域の学生が自分の夢や志を語る「東海学生 AWARD」を実施し、多くの若者の成長支援に大きく貢献している。

三重県と連携し、「地域の人事部」を目指し、「就域」勉強会・セミナーなどを実施。令和 5 年度は、RECRUITERS SALON として、採用・育成のトレンドを地域の中小企業が学び、企業同士の交流・顔の見える関係づくりを目指した勉強会を実施。人材育成 LAB. 採用広報 LAB. インターンシップ LAB. などの活動を展開中。地域一体となった「共創」の取り組みを目指している。



【シンポジストプロフィール】

今永 典秀

名古屋産業大学 現代ビジネス学部 経営専門職学科 准教授

Co-Innovation University (仮称) ボンディングシップ・アドバイザー

名古屋市出身。名古屋大学経済学部卒業後、大手信託銀行・トヨタグループに勤務。並行して学生のキャリア形成を支援する市民活動を実施。その後、岐阜大学地域協学センターを経て、現在は名古屋産業大学にて経営専門職学科の立ち上げと運営を実施。地域・様々な企業と連携した、実践かつ多様な教育プログラムを開発。主な書籍「長期実践型インターンシップ入門」（編著）ミネルヴァ書房、「企業のためのインターンシップ実施マニュアル」（共著）日本能率協会マネジメントセンター、「共創の強化書」（共著）中央経済社

古屋氏のプロフィールは、7 ページをご覧ください。



【コメンテーター／モダレータープロフィール】

松坂 暢浩

山形大学 学術研究院（学士課程基盤教育院）教授

山形大学 キャリアサポートセンター長

1979 年、宮城県仙台市生まれ。専門は、人材育成論、キャリア教育論。博士（学術）。民間企業 2 社（大京グループ、リクルート）を経て独立。2011 年より現職。全学対象のキャリア教育および就職支援の企画・運営を担当。また外部委員として、日本インターンシップ学会東日本支部支部長、内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部「地方創生インターンシップ検討会」委員、経済産業省「戦略的ツール活用型若者 人材移転支援事業」検討委員、山形県「若者女性県内就職・定着促進協議会」座長などを歴任。主な受賞歴として、文部科学省「大学等におけるインターンシップ表彰（文部科学大臣表彰）」最優秀賞受賞、日本インターンシップ学会「槇本記念賞（秀逸なるインターンシップ）」受賞など。